

令和 4 年 5 月の市民の声（全 2 通のうち 1 通）

◇ 牧之通りの賑わいを取り戻す方法について

【ご意見・ご提案など】

せっかく多大なお金をかけて牧之通りを整備したのに全く利益が出ていないように感じます。

土日なのにお店が休みだったり、通りにはほぼ誰も歩いてもいない。

税金を投入したのであればそれに見合った収益が見込めると思っただけの計画だったはずですが、どうなのでしょう。

これからなんとかしようという気概も感じないし、そもそも何を目的にどんなターゲットに対して収益を見込んだ整備だったのかも全く定まっていな気がしてなりません。

何とかして賑わいを取り戻す努力をしてください。

（令和 4 年 5 月 31 日）

【お返事】

牧之通りでは、まちづくりとして、平成 12 年から地域住民、新潟県、当時の塩沢町が参加し、何度も勉強会やワークショップを開催し、「子どもや孫たちがこのまちで育って、自分たちのまちを誇れるような町にしたい」という思い（目標）を持って街並み計画を作成しました。沿道住民で結成された「牧之通り組合」は、「まちづくりはまず自分たちでやろうとする自立」「自分たち自らを律する自律」「地域の歴史や文化を最大限に活かす自活」、この 3 つの考え方を「まちづくりの原則」として、現在も積極的に活動を継続しています。また、牧之通り組合と牧之通り「射干の会」が主催して、ひな雪見かざり、つむぎ語り等のイベントが定期的に行われ、令和元年には、117,950 人の観光客が訪れ、来訪者がまち歩きや街並みを楽しんでいただけるよう「おもてなしの心」で、民家や商店などに観光客をお招きする取組を行っています。

このような地元のまちづくりに合わせ、牧之通りの道路は、

新潟県が事業主体となって、平成 13 年度から平成 22 年度に、現在の形となる道路整備を実施しました。さらに、沿道住民のまちづくりによって個人地内に雁木の通路が設けられています。

ご指摘のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年は 38,810 人、令和 3 年は 18,650 人と、観光客が激減しています。定期的に行っていた各種イベントも中止せざるを得なくなり、通りの賑わいの消失に拍車をかける結果となっています。

しかし、「牧之通り組合」からは、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、随時まちづくり活動を再開していく予定と聞いています。市としても、新型コロナウイルス流行以前の活気や賑わいが取り戻せるよう、地域のまちづくりに積極的に関わり、協力してまいります。

このたびは、牧之通りに関するご意見をいただきありがとうございます。

(担当：都市計画課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658